

ながさきサステナスクール支援事業

～ 令和元年度活動事例 ～



長崎市
環境政策課

1 サステナスクール支援事業とは

本事業は、市が設置した「ながさきソーラーネット〔メガ〕三京発電所」の売電利益によって創設された「ながさきエコライフ基金」を活用し、持続可能な地域づくりを担う人材育成をすすめる「ながさきサステナプロジェクト」の一環として、地域や環境保全団体と連携して、特色ある環境活動を計画し、実施する意欲のある学校を支援するものです。

本事業を通じて、子どもたちが、市民、事業所、行政等が一体となって環境活動に取り組んでいることを知り、子どもたち自らの環境行動の活性化を図ることで「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進を目的としています。

2 令和元年度の実施状況

令和元年度は、ご応募のあった市立小中学校 5 校への支援を実施しました。各学校の活動内容については、次ページ以降をご覧ください。

①山里小学校・・・ 1 ページ

②横尾小学校・・・ 5 ページ

③大浦小学校・・・10 ページ

④小江原小学校・・・16 ページ

⑤桜馬場中学校・・・23 ページ



パンフレットに掲載している活動事例を参考に、今後の学校において実施する取組みについてご検討ください！

市民主体の環境活動拠点
「サステナプラザながさき」
イメージキャラクター
サステなちゃん

山里小学校

【環境分野】 自然環境

【活動名】 平和を大切にする心で学校や地域をきれいにしよう



【エコ宣言】

私たち、ぼくたちは、平和を大切にする心で街や学校をきれいにし、平和学習に来る方たちを迎えます。

【活動の概要】

山里小学校では、児童と教職員によるあの子らの丘や永井坂のボランティア清掃を、毎朝実施しています。また、6月には校区内各自治体において、公園清掃や花植えの活動を行いました。11月には「金比羅山登山クリーンアップ作戦」を実施し、児童が保護者・地域の方と一緒にごみを拾いながら下山をしました。このような活動を通して、児童が地域との連携を深め、環境行動を実施していくことで協働の大切さを学び合うとともに、環境保全に対する意識を高めております。

今回は、毎日の清掃活動に係る清掃用具の新たな購入や、見学者の方の多い校内を彩る花の苗、原爆資料室用の掃除機の購入を行い、より活発な活動を進めています。

【活動のスケジュール】

- 6月 ボランティア活動（清掃、花植え）
- 10月 校内環境整備作業
- 11月 金比羅山登山クリーンアップ作戦
- （毎日の活動）ボランティア清掃

【予算の使い道】 **合計 297,451円**

- ・掃除用具（ほうき、ちりとり） 95,414円
- ・校内整備用品（花苗、じょうろ、サインスタンド） 157,641円
- ・掃除機 44,396円



校長 吉本研二先生

【校長先生から一言】

山里小学校は全国各地から来校者が見学を訪れます。学校や地域の環境を美しく整えることによって、児童の平和を大切にする心や思いやりの心を育むことができるように願っています。

【活動の様子】

★ボランティア清掃 毎日

毎朝、児童・教職員による、あの子らの丘や永井坂のボランティア清掃を行っています。「あの子らの碑」を中心としたこの丘は、ピースゾーンとも呼ばれ、平和学習を進める場として、また、平和祈念行事の会場としても使われています。



たくさんの被爆遺構がある校内。普段から見学者の方が多いため、毎朝の清掃に力を入れています。

ボランティア清掃を行う際などに不足していたほうきやちりとり、原爆資料室を清掃するための掃除機を新たに買いそろえました。



★地域ボランティア清掃 6月15、16日

校区内の各自治会において、公園清掃や花植えの活動を行いました。児童100名に加え、保護者・地域の方々300名が協力し、活動に取り組みました。



たくさんの方と協力して活動を行うことができました。また、地域においての活動を通して、地域の自然の豊かさに気付くとともに、地域を思いやる心を高めることができました。

★校内環境整備作業 10月19日

保護者・教職員による、校内環境整備作業を行いました。



校内の清掃作業に加えて、新しい花苗をプランターへ植えました。平和学習にいらっしゃる方々を明るく迎え入れることができます。

★金比羅山登山クリーンアップ作戦

11月17日

金比羅山へ登山し、帰りはごみを拾いながら下山しました。児童50名と教職員10名に加え、保護者と地域の方々100名が参加し、金比羅山への登山を楽しむとともに、自然に触れながらごみ拾い活動を行うことができました。



地域の方々との交流も深めることができました。また、自然とのふれあいを楽しむとともに、環境保全の大切さについても意識を高めることができました。

横尾小学校

【環境分野】 循環型社会

【活動名】 生ごみリサイクル



【エコ宣言】

横尾小学校は、伝統の給食残滓を利用して作った元気野菜を、地域の西部自治会生ごみリサイクル部のみなさんと協力し合って栽培し、交流（「野菜パーティー」など）や給食の材料として還元利用いたします。

【活動の概要】

横尾小学校では、伝統的に給食残滓を利用して堆肥を作り、その堆肥を元気野菜作りに使用しています。堆肥作りや野菜の栽培は地元の横尾西部自治会の皆様のご指導とご協力をいただきながら行っています。栽培、収穫した野菜は、自治会の方々との「野菜パーティー」や給食の食材、各家庭において使われています。

今回は活動に係る農具や野菜の種、野菜パーティーで使用する物品などの購入や自治会への謝礼金の支出を行いました。身近な環境問題であるごみ問題について調べ、実践することで児童が学校ではもちろん、家庭においてもごみや食べ残し等の削減といった環境行動の実践につながり、児童の環境に対する意識の向上を図ることができました。

【活動のスケジュール】

5月下旬	ぼかしづくり
6月	生ごみとぼかしを混ぜて堆肥作り
9月	大根、人参の種まき・白菜の定植
11月～	収穫
12月	収穫祭

【予算の使い道】

合計 **297,255 円**

・講師謝礼金	55,000 円
・消耗品費（農具、種など）	162,335 円
・委託料（元気野菜看板）	79,920 円

【校長先生から一言】

横尾小学校は、地域の方々の協力を得ながら、子どもたちの教育活動を数多く展開しています。その一つが、「生ごみリサイクルによる野菜作り」です。

野菜作りは、給食で出た残滓を利用して堆肥を作り、その堆肥に白菜、人参、大根といった野菜の種を植え育て、できた野菜を給食のおかずにして食べるということをしています。その野菜作りを支援していただいているのが「横尾西部自治会生ごみリサイクル部」の方々です。

子どもたちには、この取り組みを通して、食べ物を大切にしようとする心と、支援していただく地域の人たちへの感謝、横尾地区への郷土愛、そして、環境を良くしようとする実践力が育ってほしいと願っています。



校長
松崎邦彦先生

★ぼかしづくり 5月下旬

横尾西部自治会のみなさんのご指導をいただきながら、ぼかしづくりを始めていきました。



5月31日（金）

横尾西部自治会のみなさんを講師として、体育館でぼかしづくり・肥料作りについての勉強会を行いました。

★生ごみとぼかしを混ぜて堆肥作り 6月

5月下旬から作り始めたぼかしと給食残滓の生ごみを混ぜて、堆肥作りを行いました。この堆肥がとても土を元気にしてくれます！



①野菜を細かく砕く。



②生ごみとぼかしと混ぜる。



③堆肥を畑に混ぜ込む。



④温かい糸状菌に触れている様子。

★大根、人参の種まき 9月12日(木)

大根と人参の種まきを行いました。5月から取り組んでいる土づくり、元気な野菜が育つよう、しっかり種まき作業に取り組みます。



大根は 30cm間隔で、空き瓶の底でしるしをつけた穴にサイコロの目状に5個ずつ、種をまきます。



人参は、水が蒸発しにくいように、みんなで畝を踏んでいきます。みんなが踏んで硬くなった畝に、バットで混ぜた人参の種と土を撒いていきます。



もみ殻をかぶせて、そのあとはたっぷり水やりです！芽が出るまで毎日水やりを頑張ります。

★感謝の会 12月3日(火)

今まで活動を支えてくださった横尾西部自治会の方を招いて、感謝の会・野菜パーティーをおこないました。まだまだ野菜が大きくなる、ということで本格的な収穫はまだですが、大きく育っている野菜を選んで収穫、味噌汁にしてみんなで味わいました。



甘みがあって本当においしい大根と人参でした！たくさん作っていましたが、すぐになくなってしまいました。



横尾西部自治会のみなさんに、感謝状とメッセージ、アルバムを手渡しました。いつも活動を支えてくださった感謝の気持ちを伝えました。



★収穫 12月13日(金)

大根と人参の収穫を本格的に行いました。とても立派に成長していた元気野菜、たくさん収穫できました！後日、みんなの給食にも使われます。



立派な大根が収穫できました！！



大浦小学校

【環境分野】 自然環境

【活動名】 自然環境とのつながりを学び、自然と
なかよく暮らしていく方法を工夫しよう



【エコ宣言】

大浦小学校はエコシステム(太陽光発電や雨水利用)が整備されている学校です。また、教室のベランダで植物を育てたり、中庭に手作りの観察池を設置したりするなど、自然に親しむための工夫も重ねている学校です。本校では、学校・学級園、プランター等で植物を育てたり、節水・節電、リサイクル活動に取り組んだりする活動を通して、命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養います。

【活動の概要】

大浦小学校では太陽光発電設備を備えているものの、そのシステムについて児童が学習する場が十分ではなかったため、モニターテレビの取替や、講師招聘による環境学習を実施しました。

また、子どもたちがより身近に植物の栽培・鑑賞・体験ができるように、PTA(おやじの会)の協力も得ながら、児童玄関前に学校園の新設や、校庭へのイロハモミジとマテバシイの植樹をおこないました。

【活動のスケジュール】

- 9月 太陽光発電用モニターテレビの取
- 10月～ 学校園の造園、植栽
- 2月 イロハモミジ・マテバシイ植樹
講師招聘による環境講座

【予算の使い道】

合計 299,410 円

- ・太陽光発電用モニターテレビ 62,424 円
- ・学校園の造園 219,996 円
- ・苗木 11,990 円
- ・講師謝礼金 5,000 円



校長 山本高靖 先生

【校長先生から一言】

校区内に二つの世界遺産がある本校では、地域学習に力を入れ、持続可能な地域づくりに積極的に関わっていこうとする児童の育成を目指しています。今回、サステナスクールに指定いただいたことで、児童は新たに「環境」という視点から、学校や家庭、地域、日本、世界の持続性について考えることができました。今後も、大浦を愛する児童として、「環境」という視点も大切にしながら、未来を切り拓く力を伸ばしていってほしいと願っています。

【活動の様子】

①自然エネルギーについて

★太陽光発電システム用モニターの設置

9月24日(火)



大浦小学校は太陽光発電システムを設置している学校です。

太陽光発電システムによって、どのくらいの電気がつくられているのか、児童が目で見てわかるよう、壊れていたモニターの取替えを行いました。

普段の生活の中では分かりにくかった発電量も、目に見えてわかるようになりました。また、設置場所が普段からみんなの目に触れる玄関であるため、大浦小学校の太陽光発電システムがより身近なものになりました。



★講師による講義 2月13日(木)

【テーマ】「地球温暖化、気候の変動」私たちの共通の目標は？

6年生の皆さんを対象に、早瀬隆司先生(おひさまネットながさき・理事)を招き、「私たちの共通の目標」ということでSDGsのお話がありました。特にそのなかでも、「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」と「気候変動に具体的な対策を」の2つについて詳しくお話していただき、エネルギーのこと、気候変動のこと、特に地球温暖化について興味深く学ぶことができました。



話を聞いた6年生の皆さんからは、「自分たちの国や地域で電気をつくることで、外国にお金が出ていってしまうことがなく、日本や自分たちの地域が豊かになっていくことが分かった。」「二酸化炭素を減らすことが大切。クリーンなエネルギーを増やしていかなければいけないと思った。」などの感想がありました。

②自然とのふれあい

★学校園の造園 10月28日～11月8日



PTA（おやじの会）の方々の協力もいただきながら、児童玄関前へ学校園の造園をおこないました。児童の皆さんにとってより身近で、植物の栽培や観察、体験学習ができる場所が出来上がりました。



★学校園への植栽 11月11日(月)

新しくできた花壇へ、栽培委員会の5・6年生が花の苗を植えました。真ん中の列から、背の高い、ケール・ヒメキンギョソウ・ビオラの苗をそれぞれ植えました。低学年のみんなの蝶の観察学習にも使えるような花の苗を選んでいるそうです。

きれいな花がたくさん咲くのが楽しみです。



茎の細いヒメキンギョソウは特に植えにくそうでしたが、やさしく手で土をかけるなど、工夫しながら作業を行っていました。また「しっかり土を掘って植える」と最初にお話があったことから、みんなしっかりと土を掘り苗を植えていました。



3月の学校園の様子です。
とても立派に成長していました。



★校庭への苗木の植樹 2月3日(月)

校庭へ、イロハモミジ(2本)とマテバシイ(1本)の苗木の植樹をおこないました。



掘った穴に堆肥、掘り起こした土を順番に入れ、苗を固定しながら、穴の中に水をたっぷり入れます。

土をかけ、かけた土はしっかり踏み固めていきます。水がたっぷりはいっているため土が沈んでいくので、さらに土をかけながら踏み固めます。



植樹が完了しました！栽培委員会の5・6年生が大活躍してくれました。



小江原小学校

【環境分野】その他(多分野)

【活動名】

復活！「小江原茶再生計画」～小江原の自然環境を生かそう～



【エコ宣言】

小江原小学校は、地域の道路や公園、海岸等のごみ拾いに取り組むことで町を美しくし、自然環境を生かしたまぼろしの「小江原茶」の栽培にチャレンジすることで、地域の自然環境から学び、環境を生かす実践を目指します。

【活動の概要】

小江原小学校では、自治会長さんなど地域の方に小江原の歴史や文化、伝統などについて講話をしていただく中で、地域に残し、広めたいものについて課題の整理や発見をおこなってきました。その活動の中で、小江原の気候、自然環境と関係が深い「お茶栽培」に関する意識を高めました。現在は、実際にお茶の苗木の植栽をおこない、「小江原茶園」の整備・栽培を進めています。お茶の栽培に関しては、NPO 法人農業サークルのみなさんを講師とし、指導や活動のサポートをおこなっていただいています。今後は 6 年生の総合的な学習の時間のカリキュラムに位置付けて、活動に取り組んでいきます。

【活動のスケジュール】

- 11 月 ・地域からの講師招聘、講話
 ・「お茶栽培」に関する授業実践
 （長崎国際大学 橋本先生を招く）
- 2 月～ ・「小江原茶園」の整備（苗木の移植）
 ・あぐりの丘農業サークルによる指導
 ・コンポスターによる腐葉土作り

【予算の使い道】

合計 282,700 円

- | | |
|-----------|-----------|
| ・お茶の木植栽委託 | 213,400 円 |
| ・コンポスター | 14,300 円 |
| ・講師謝礼金 | 55,000 円 |



校長 木下和敏先生

【校長先生から一言】

今は住宅街となっている小江原、昔は岩屋山の中腹に開けた農村地でした。田畑の畦道や庭にはお茶の木が植えられ、自宅で楽しんでいたそうです。適度な湿度もあり、お茶栽培に適した環境の中で、小江原茶の復活に向けて探究的に取り組んでいきます。

【活動の様子】

①小江原について知ろう！

★地域の方を招いた講話 11月



自治会長である溝川勝さんをお招きし、小江原地区の歴史や当時の様子などのお話をさせていただきました。

「地域にできることはないかな」

「お茶をつくれそうだよ」

「地域とつながりたい」

などの思いをもつことができました。

写真は、溝川さんが持ってきた栽培用の種を触っている様子です。

家庭科でもお世話になっている高齢者サロン「しゃべりばサロンこえばる」さんとの活動「ゆかい」を通して、びわのお茶を作ったり、地域のことについて話を伺ったりしました。

これからの活動につながる話をたくさん聞くことができました。



地域の方との交流を行うなかで、小江原の文化や歴史、伝統など小江原のことについて知り、そして考えるきっかけとなりました。

写真は、実際にびわ茶を作っている様子です。アドバイスをもらいながら、つくることができました。

★小江原のためにできることは？ 11月28日(木)

これまで小江原の町について学んできた5年生は、「自分たちが小江原のためにできること」についてみんなで話し合いました。

今後、活動を継続し、進めていくことにあたっては、長崎国際大学の橋本健夫先生のご指導・助言をいただきました。



「地域のごみ拾い・清掃活動」や、「小江原の情報を発信する」など自分たちと地域を“つなぐ”たくさんの意見が出ました。



★地域の清掃活動

自分たちで考えた、「小江原のためにできること」である、地域の清掃活動に取り組みました。



②お茶を栽培しよう！

★お茶の木について知ろう 2月14日（金）

NPO 法人農業サークル会長 岩尾隆治さんをお招きし、岩尾さんの普段の活動やお茶の木の育て方、農業のことなどさまざまなお話をさせていただきました。



「お茶は植えてからどれくらいでできるの?」「お茶を育てるときに大切なことはなに?」「お茶の飲む以外の活用法って?」など、お茶に関するたくさんの質問がありました。



お礼の言葉のなかには、「立派なお茶園を作りたい!」との言葉がありました。

最後は、みんなでお茶の木植栽予定の場所に行き、お茶の木栽培への意欲を高めました。



★お茶の苗木の植栽 2月～

校庭の一角に、お茶の苗木の植栽を行いました。これから、「小江原茶園」として、栽培を進めていきます！

【作業工程】



～作業前の風景～



①堆肥を撒いて



②畝をつくり



③畝が出来上がったら…



④フィルムを張って



⑤苗木を植えていきます



⑥植栽の完了です！！

60本のお茶の苗木が植えられました。
お茶にもたくさんの種類がありますが、「ヤブキタ」という病気に強く、比較的栽培しやすい品種だそうです。

★初めてのお茶の木 2月21日(金)

この日、初めてのお茶の苗木を前に、岩尾さんから説明をしていただきました。お茶の苗木を観察しスケッチする姿や、岩尾さんの話を熱心にメモしている姿が印象的でした。



岩尾さんが持ってきてくださった、お茶の種や木の枝などを触ってみたり、においをかいでみたりと観察をしました。実際にお茶の葉をさわってみると、「(葉の縁取りが)ギザギザしている!」と、新たな発見もありました。



★お茶の木栽培に係る作業 3月3日(火)

農業サークルのメンバー5名の方が、お茶の木栽培に係る作業を行いました。急な臨時休業で5年生は活動に参加できませんでしたが、休み時間に作業を見学し、岩尾さんの話に耳を傾けていました。また、お茶の木への作業のほかに、畑の空きスペースにトウモロコシの種まきを行いました。



寒さ・暑さ対策や苗木の補強のため、もみ殻を敷きました。また、においが強く、虫が嫌がるニンニクを植えました。農薬を使わない害虫対策で



給食で余った野菜くずともみ殻をコンポスターの中で混ぜて、肥料を作る下準備をしました。これから、児童のみなさんが朝掃除で集めた落ち葉なども別のコンポスターに入れ、お茶の木への肥料にする研究を予定しています！

桜馬場中学校

【環境分野】 その他(多分野)

【活動名】 地域とつながる憩いの公園づくり



【エコ宣言】

桜馬場中学校は、“ふれ愛広場”で自然を体感し、地域と共に持続可能な社会・地域作りを考え、実践します。

【活動の概要】

桜馬場中学校では、学校敷地内空き地を使用し、『さくらふれ愛広場』の整備を行いました。まず、空き地の除草作業を行い、そののち土中のがれきを撤去しました。全生徒に設計とネーミング、完成予想図を募り、ネーミングは『さくらふれ愛広場』に決定しました。昼休み等にボランティアを中心とし、毎日作業を進めてきました。

間伐材を活用した畑づくり、自然観察池の設置、記念樹の植樹、芝生張り、ベンチの設置などが完了しました。これからもみんなに末永く愛される『さくらふれ愛広場』を目指して、維持管理を進めてまいります。

【活動のスケジュール】

- 6月～ 公園設計図案の募集、測量、全校除草作業
- 8月 公園設計図完成、除草作業（1回目）
- 9月～ 除草作業（2回目）、土の掘り起こし、石の除去・搬出、土入れ
- 10月～ 区画づくり、自然観察池の穴掘り
- 12月～ 自然観察池の設置、土搬入、地ならし
- 1月～ 丸太（畑の枠組み）の設置、畑の土搬入
- 3月 地ならし、芝生張り、記念樹の植樹、ベンチの設置、花の苗植え

【予算の使い道】

合計 **299,420円**

・広場整備用消耗品（土、芝、腐葉土、観察池など） 299,420円



【校長先生から一言】

前々からこのスペースの活用を課題に感じており、今回ながさきサステナスクール事業に申し込んだところ、生徒と教職員の協働により「ふれ愛広場」を完成させることができ、大変うれしく思っております。ありがとうございました。

校長 菅島満司先生

【活動の様子】

★広場の設計計画案の募集、決定 6月～

全生徒のみなさんから、憩いの広場の設計とネーミング、完成予想図を募りました。完成予想図、ネーミングも決定し、『さくらふれ愛広場』となりました。

整備前はまったく使われていないスペースですが、この完成図のような広場を目指して整備を行っていきます。



『さくらふれ愛広場』の完成予想図です。3学年分の畑や、観察池などの自然観察スペースと、芝生やベンチといった交流スペースを設けます。

★除草作業・土の掘り起こし 6月～

まずは草の除草作業を行いました。次々に新たな草が生えてくるため、除草作業は長い時間がかかりました。



整備前



整備開始後（除草作業中）



土の掘り起こし

耕耘機を使って、土の掘り起こし作業を行っていきます。PTA 除草作業などを通して、雑草はきれいに取り除かれました。

★石やがれきの除去・搬出作業 9月～

広場の石やがれきの除去と搬出作業を開始しました。予想以上にたくさんの石があり、搬出には苦労しました。搬出時には協力して、バケツリレーを行いながら作業を進めました。昼休みにはボランティアの生徒のみなさんが作業を率先して取り組んでくれていました。



たくさんの石、がれきを除去しました。「石が重くて、運び出す作業がいちばん大変だった。」と教えてくれた生徒さんも多くいました。



★観察池の穴掘り・設置・水入れ、 畑の区画づくり 10~12月



【作業の流れ】

- ①地面に穴を掘る。
- ②穴の底に石を敷いて池が水平になるように調節していく。



- ③池を設置して池と穴との間にできる隙間に土を入れて、水と混ぜ合わせながら固めていく。



雨の日以外は毎日手伝いに来てくれたボランティアのみんなです。「池を設置する際に、水平にするために調整していくのが作業のなかでいちばん大変だった。」と教えてくれました。



畑の区画づくり

池への水入れ

★丸太の搬入・畑の整備 1月～

畑用の丸太（間伐材）の搬入作業、畑の整備をおこないました。耕運機で耕し、腐葉土を入れて本格的な畑にしていきます。



1月17日（金）

2トントラックを使用して、畑用の丸太を農業センターから運び込みました。大きく重い丸太のため、広場の上から転がしながら運び入れました。立派な畑の形が出来上がりました



★土の搬入 1月～

客土の搬入作業を始めました。みんなで協力しながら広場に搬入された土を一輪車に乗せ運搬します。



1回目の搬入時は、数十メートル離れた場所に土を入れ、そこから生徒のバケツリレーで広場まで運んでいきましたが、2回目は搬入方法を変更し、広場までの滑り台を作りました。直接、広場に土を搬入できるようになりました。

★池へメダカの放流 2月27日(木)

設置した池にメダカの放流をおこないました。みんなとても興味津々です。



★土の踏み固め 3月3日(火)

これから芝を引いていくためには大切な作業です。最初は少し柔らかかったですが、みんながしっかり踏み固めてくれたおかげで、とても固くなりました。



3年生の畑には花苗を植える予定です。花苗を植えるため、耕したのち、きれいに均していきました。

★芝生の設置 3月5日(木)

4日からの急な休校に伴い、先生方で芝生の設置作業を行いました。



まず芝生を全面に張り、その上から目土をかけ、均していきました。生徒のみなさんと一緒に作業ができなかったのが残念ですが、無事、芝生張りの作業が完了しました。

★植樹式を行いました 3月16日(月)

3年生の卒業記念樹として、桜の木の植樹を行いました。4クラスがそれぞれ1本ずつ、計4本の桜の木が広場に植えられました。

これから大きく育っていく桜の木が、ふれ愛広場を彩ってくれるのが楽しみです。



3年生の卒業記念品として、ベンチが設置されました。また3年生の畑にはパンジーの花苗が植えられ、さらにふれ愛広場がにぎやかになりました。



ながさきサステナスクール支援事業 ～令和元年度活動事例～

作成者 長崎市環境部環境政策課

〒850-8685 長崎市桜町6番3号

電話：095-829-1156【直通】 FAX：095-829-1218

E-mail：kankyo@city.nagasaki.lg.jp